

8月定例記者会見

▽日時:令和2年8月31日 午前10時から

▽会場:稲敷市役所4階全員協議会室

▽参加記者:読売新聞、茨城新聞、朝日新聞、毎日新聞、時事通信社

▽参加者(市):市長、副市長、教育長、行政経営部長、危機管理監、地域振興部長、教育部長、土木管理部長、行政経営部企画監、教育委員会企画監、総務課長、秘書政策課長、産業振興課長、企画誘致推進室長

■資料

別紙のとおり

■市長あいさつ

改めまして、おはようございます。記者の皆様にはお忙しいところ、お集まりいただき、ありがとうございます。また、日頃より本市の情報発信等にご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、まだまだ厳しい暑さが続いておりますが、記録的な暑さとなりました8月も 今日で終わり、明日からは9月を迎えます。市内では稲刈りが最盛期を迎え、稲敷市らしいいつもの風景が広がっておりますが、今年は例年とは異なる コロナ禍のなかで、小・中学校では短い夏休みが終わり、先週から学校生活がスタートしております。新型コロナウイルスとの戦いは、すでに半年となりましたが、依然として収束の見通しは立っておらず、まだまだ長期化が予想されます。これから台風シーズンを迎えますが、自然災害による複合災害を最大限警戒していかなければなりません。

昨年は台風15号、19号などの影響により、本市でも大きな被害がもたらされましたが、今後、あらゆる状況を想定しながら、複合災害に備えていかなければならないと考えております。そうした中、先月下旬には、感染症に配慮した、円滑な避難所運営ができるよう、稲敷市消防団をはじめ、消防署や警察署の方々のご協力をいただきながら、避難所開設訓練を実施いたしました。浮き彫りとなりました課題の 一つ一つの検証を進め、柔軟に対応して参りたいと考えております。

本日は、明日開会予定の令和2年 第3回定例会の提出議案等につきまして、ご説明をさせていただきます。稲敷市ではこれまでに、新型コロナウイルス感染症に対します、緊急経済対策事業を5月に第1弾として、総事業費約4億円、7月に第2弾として、総事業費約2億6千万円予算化し、施策を進めているところですが、現在、第3弾となる緊急経済対策をとりまとめおり、今期定例会会期中に予算案等を上程したいと考えております。新型コロナウイルスの感染防止対策と、社会経済活動の両立は大変難しい舵取りであります。刻々と変化します状況をしっかりと注視し、市民の皆様のお安心安全、そして暮らしを守ることを最優先に、この難局を乗り越えていきたいと考えております。

このあと、議案等の概要につきまして、行政経営部長よりご説明させていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

■ 質疑応答

【圏央道稲敷東 IC 周辺地域官民連携まちづくり推進事業について】

Q: 第一エリアのトマト育成ハウス6棟について、形が整うのはいつか。

A: 6棟の建設完成は早くも今年度末。今年秋には建設開始予定。

Q: 第一エリア全体と、第一エリア外の規模と完成時期は。

A: 第一エリアの残りの部分は来年度以降に補助金を申請して増設予定。第一エリアの完成規模は計12棟(11棟トマト生産、1棟育苗棟)。当初予定の15棟の計画が縮小されている理由は、昨年度の秋の大雨を経験しての排水対策のため。12棟すべての完成には、あと2~3年かかる予定。第一エリア外のマルシェ、レストランについては、2023年度までに(株)OSMICは開店したいと希望しているが、茨城県と協議段階。

Q: 第一エリア以外の用地確保について、状況は。

A: 第一エリアは100%だが、それ以外のエリアは数筆程度。まず、第一エリアを完成形にしようという計画。それ以外の土地はこれから協議していく予定。

Q: これだけ創業までの期間が延びると、(株)OSMICの体力が続くのか疑問。

A: (株)OSMICはやる、と言いきっている。他の企業と連携し進めている。

Q: コロナの影響はないのか。

A: (株)OSMICの売り上げは仕入れ先のレストランなどの卸分が下がっているが、ネット販売でそれ以上の売り上げを上げて全体ではプラスだと聞いている。

Q: どこかのタイミングで開発場所の見学会をすることはできないか。年内に一度ハウスが整備された段階で見学会を企画してくれないか。

A: (株)OSMICとさっそく相談する。